

VG 槻輪だより

会報 第233号

発行日 令和6年2月1日

発行・編集 VG 槻輪

代表者 大岡成一

<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

**VG 槻輪
「わがまち紹介」
活動報告**

拝殿天井から
龍が見守る神社
瀧尾神社へ新年の
拝観・参拝

1月18日は、真冬の寒い時期ですが、多くの方がJR東福寺駅改札に集合しました。風はありませんが小雨が降っていました。

東福寺駅から本町通（伏見街道）に出て、北へ約5分程進むと、瀧尾神社の石の鳥居と提灯が現れ境内に入りました。



東福寺手水舎の龍の水口

手水舎には、龍の口から水が出ていました。手を清め隣にテントが張っていて小雨の中で休むことが出来ました。

東福寺の檜皮葺（ひわだぶき）の本殿・幣殿・拝所・回廊・拝殿はそれぞれ京都指定有形文化財です。



東福寺の拝殿

まず、最初に拝殿に上がるには、昇殿初穂料五百円を納め、拝殿に上がり、天井



拝殿の天井の龍

神社の創建や由来は不詳ですが、歴史は古く「源平盛衰記」に旧名「武鶏ノ社」の名が記され、東大路の五条あたりから応仁の乱などで場所

を転々とし、豊臣秀吉の大仏殿建立に伴う移転で現在地へと移されました。江戸時代の初期には幕命により、社殿を修理、神社名を瀧尾神社とされていま



東福寺本殿の前にも彫物

現在の社殿は、江戸時代後期・天保10年（1839）〜11年に大丸百貨店の創業者下村彦右衛門が行商の頃より、自宅のあった伏見区京町から毎朝欠かさずお参りをしていて、大丸百貨店の繁栄は瀧尾神社のご利益のおかげだと創業者である下村家が2500両（現在価値で約5億円）もの莫大な寄進により移築・改築、整備されたものです。

本殿の正面は霊獣

らしき彫物、社内には阿吽の龍、獺、鶴、鳳凰、尾長鳥や水鳥、霊獣の犀や麒麟、回廊には十二支の動物が裏面も同様に生き生きと丁寧に仕上げられています。これは立体感や躍動感が湧き出るように木目まで計算し彫られた江戸末期の京の彫物師、丸山新太郎作の彫物です。



大船鉾の龍頭

これらの瀧尾神社の彫刻は、丸山新太郎によるものとされています。

丸山新太郎は代々丸山新之丞を名乗り、その一派は祇園祭に登場する大船鉾の龍頭も手がけたと考えられています。禁門の変で消失した大船鉾が2016年再現された際には、船首の龍頭はこちらの龍を参考に現・丸山新之丞氏によって新調されました。彫刻は龍の爪や髭

など細部も手の込んだ素晴らしいものになっており、よく見ると美しい金色の玉も見られます。どこにあるのか拝殿周囲をぐるっと一周してみました。



拝所の柱上部の彫刻

幣殿やその左右に続く東西廊には阿吽の龍に獺・鶴・鳳凰・尾長鳥や水鳥・干支の動物たちや霊獣の犀・麒麟など豊富な彫刻を見ることができました。



幣殿・回廊の両面彫刻

これほど多くの彫刻が見られるのは数ある京都の神社仏閣でもそうありません。詳細は、VG 槻輪のHPをご覧ください。

2024年2月「わがまち紹介」活動

大阪府を代表する全域が風致地区に指定された日本の都市・歴史緑地公園の散策

月 日：2024年2月15日(木)

集合場所：緑地公園駅改札口出口 集合

訪問先：緑地公園（梅園など散策）

その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。

2024年3月「わがまち紹介」活動

竹の生命力と成長をイメージした驚きのアート空間・国立国際美術館見学

月 日：2024年3月14日(木)

集合場所：大阪地下鉄肥後橋駅北改札口 集合

訪問先：国立国際美術館見学

その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。